

東北六県連（青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島）

仙台で「東北絆まつり」開催 力強い復興をアピール

東北六県商工会議所連合会や東北6市などで構成する東北絆まつり実行委員会は、6月10、11日の2日間、宮城県仙台市内で、「東北絆まつり2017仙台」を開催した。同祭りは、東北6市の祭りが一堂に集結し、震災からのさらなる復興に向けて歩いていく東北の姿を国内外に広くアピールするもの。復興の旗印として昨年まで開催されていた「東北六魂祭」の後継イベントとして装いも新たにスタートし、2日間で合計45万人を超える観客を動員した。祭りのコンセプトは、「多彩な東



▲10日に実施した一番町商店街流し踊り。総勢約120人が華やかな踊りを見せた

北が、熱い絆でひとつになる」。東北の財産である各地に根差した文化を将来に引き継ぎ、さらなる復興に向け絆を深めるといふ思いが込められている。10日の開祭式では、鎌田宏実行委員長（仙台・会頭）が、「復興に向け力強く歩む東北の力を感じていただき、8月にはぜひ、各市の本祭りに足を運んでいただきたい」とあいさつした。

東北絆まつりには、東北六市を代表する「青森ねぶた祭り」「秋田竿燈（かんとう）まつり」「盛岡さんさ踊り」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」「福島わらじまつり」が参加。11日に実施したパレードには「仙台・青葉まつり」のすずめ踊りも特別参加し、それぞれの祭りの踊り手など約1200人が約1.1kmのコースを約2時間半かけて往復した。沿道に詰め掛けた観

客からは、東北の力強い復興を表す各祭りの演技に大きな歓声が上がった。また、ステージイベントや

御坊（和歌山県）

「幸せくるる（くれる）」菓子開発 まちの歴史や文化をモチーフに

御坊商工会議所（和歌山県）は5月15日、新しい御坊土産として菓子5種類を発表した。これは、御坊市の地方創生に向けた取り組み「わがまち魅力発信事業」の一環として、市から委託された同所

が御坊菓子工業組合に依頼し開発されたもの。菓子を通じて御坊の魅力のアピールしようと、同組合加盟の5店が「幸せくるる」をテーマに御坊の歴史や文化をモチーフ



▲新しい御坊土産となった五つの菓子。パッケージデザインはそろえた

「ねぶた祭り」の山車の展示、東北グルメを楽しめる飲食ブースの出店もあり、祭りにはにぎわいを見せた。

にした菓子を考案した。「くるる」は、「くれる」を意味する同地方の方言。菓子には学力や健康、美、金運、結び（人の縁）など「五望」（五つの望み）をかなえるという願いも込められている。

5種類の菓子は、学問の神「天神人形」の形のごぼうあん入りまんじゅう「紀州御坊の天神さん」、名所・本願寺日高別院のイチヨウの焼き印を入れたたら焼き「お美堂さん」、日高別院太鼓楼をモチーフにしたクッキー「太鼓楼」、御坊に伝わる「宮子姫物語」にちなんだまんじゅう「宮子」、昭和39年の東京オリンピック招致に尽力し日米友好の懸け橋となった偉人・和田勇をイメージした金山寺みそ入りのパイ菓子「夢くるる」。それぞれ各店で販売されている。また、店舗の場所と観光名所を記したマップも作成、各店と一部観光施設で配布している。